



2学期制導入の目的

2学期制の特性を生かし、1つの学期の期間が長くなる中で、授業や学校行事の在り方などについて創意・工夫しながら、児童生徒と教職員が触れ合える時間を確保し、児童生徒の「確かな学力」の向上及び「豊かな心」の育成を目指します。

特色ある教育活動に取り組みます



1 児童生徒の主体性と豊かな心を育みます。

学期の始めや長期休業前に、児童生徒一人一人が自分のめあてを設定し、学期を見通して、主体的に学校生活や家庭生活が送れるようにします。また、教師が、これまで以上に児童生徒と向き合う時間や触れ合う時間を確保することで、児童生徒の豊かな心を育みます。

2 学びの連続性・長期的な成長を見取る評価により、確かな学力の定着を図ります。

学期の期間の長さを最大限に生かし、単元をひとまとまりとした学習の充実を図ります。また、成長につながる評価(指導と評価の一体化)を推進し、学習内容の確実な定着に努めます。

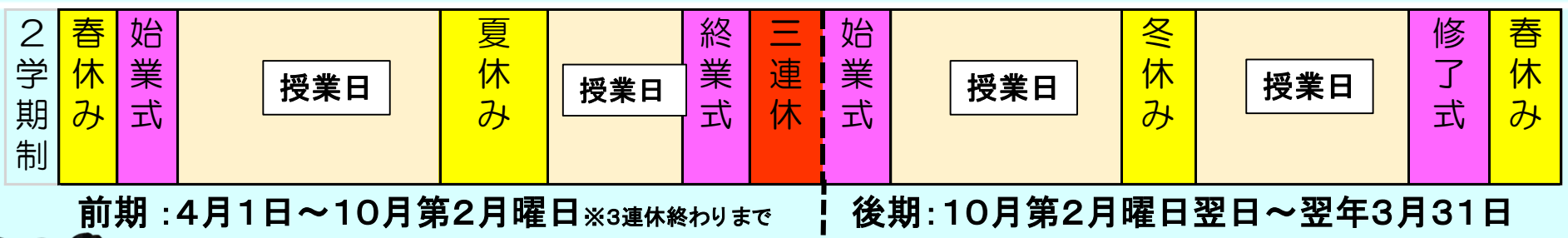
3 家庭との連携・情報共有の充実を図ります。

長期休業(夏休み)前や開始直後に、保護者との面談を実施し、学校生活や学習の様子を確実に伝えて情報を共有するとともに、休業中のよりよい過ごし方について共通理解を図ります。

4 ゆとりを育む学校生活を創出します。

3学期制では実行が困難であった7月・12月に行事を設定するなど、年間を通してバランスよく教育活動を推進し、児童生徒の学校生活にゆとりと活力を生み出します。

学期の区分



長期休業期間について

- 夏季休業期間 7月21日 ～ 8月31日
- 冬季休業期間 12月25日 ～ 翌年1月 7日
- 年度末・年度始め休業期間 3月25日 ～ 4月 5日

令和5年度と変更はありません。

主なQ&A



- Q1 長期休業と学期の区切りが一致しないので、学習・生活のリズムがつくりにくいのではないのでしょうか？
A1 前後期の切り替えには、前期のまとめと後期の見通しを立てる活動をしっかり行っていきます。
- Q2 通知表の回数が3回から2回となり、学校での生活や学習の様子を知る機会が減るのではないのでしょうか？
A2 夏季休業前、または夏季休業中に入ってすぐに保護者面談を実施し、学校の様子や学習状況を個別にお伝えします。面談では、夏休みに取り組むこと(学習課題等)についても、保護者と情報を共有します。
- Q3 進路(私立高校受験等)面での影響はありますか？
A3 影響はありません。前期の評価(9月末)に、10月から12月までの評価資料(単元テスト結果等)を加味して、適切に評価します。成績については、テスト結果等を保護者にお伝えし、最新の学習状況を共有します。
- Q4 5時間授業日が増加し、子供が早く帰宅することでの様々なことが懸念されますが・・・
A4 学童保育施設と連携し、送迎等に支障が出ないようにします。また、単に宿題を増やすようなことはせずに、児童生徒が自分の興味・関心に基づいて、有意義に生活できるよう支援していきます。
- Q5 中学校の部活動はどのようになりますか？
A5 県及び各中学校の「部活動の運営方針」に沿って、平日は2時間、休日は3時間を上限とし、年間を通して合理的かつ効率的・効果的な活動を行うことに変わりはありません。